

加賀電子株式会社
2024 年 3 月期（第 56 期） 第 3 四半期 決算

主な質問と回答
決算発表日： 2024 年 2 月 7 日(水)

＜ご留意事項＞

「主な質問と回答」は、当社の判断でポイントのみ簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

質問：第 3 四半期で前年同期比「減収・減益」となった理由は何か。

回答：売上高は、情報機器事業、その他事業は伸長しましたが、電子部品事業において半導体・電子部品の供給不足が解消されたことにもないスポット需要が消失したことより△183 億円、株式会社エクセルの海外子会社における特定大口顧客向け取引減少により△175 億円、加えて足元では顧客全般における在庫調整が本格化したことなどの影響を受け、前年同期比△457 億円の減収となりました。

営業利益は、売上高減少にともなう売上総利益減少に対して、販管費削減に努めましたが、前年同期比△55 億円の減益となりました。なお、営業利益率は第 2 四半期と同水準を維持しております。

質問：具体的にどのような業界で在庫調整が起きているのか。

回答：第 3 四半期では、主に医療機器や産業機器向けで在庫調整の影響がみられました。一方、車載向けは半導体や電子部品の需給改善により伸長しました。

質問：在庫調整解消の目途はいつ頃か。

回答：在庫調整の影響は、上期終了時点では期初想定したほど発現せず、売上高、営業利益とも社内計画を上回って折り返しました。下期に入り本格化したことから、後ずれしているものと考えております。よって、在庫調整局面は当面継続し、本格的な需要回復は来期前半になるものと考えております。

質問：第 2 四半期に比べ第 3 四半期の棚卸資産高が増加しているが、在庫水準は適正なのか。

回答：当社の在庫は、主に部品販売ビジネスにおいてお客様からの要望により当社で保管しているものと、EMS ビジネスにおいて生産ライン休止を招く欠品リスクを避けるためのものであります。第 2 四半期に比べ棚卸資産が増加しておりますが、基本的にお客様からの発注に紐づくものであり、廃棄損や評価損の発生リスクはありません。ただし、キャッシュ創出力確保の観点から、今期末には目標としている 500 億円程度に減少させていきたいと考えております。

質問：会社計画に対し 20 億円上振れているが業績予想は修正しないのか。

回答：第 3 四半期の業績は、社内計画に対して上振れ基調を維持して順調に推移しておりますが、足元では顧客全般において在庫調整が拡大するとともに、ウクライナや中東など長期化する地政学的リスク、国内外での景気減速懸念、急激な為替変動の影響など先行きを見通し切れず、通期の連結業績予想を修正しておりません。